



愛知淑徳学園学園長
小林素文

新体制 宜しく願います。

大学新体制

平成23年度より、愛知淑徳大学は、新たに島田学長、石田・河辺副学長という新体制となります。

島田新学長は、若山牧水賞を受賞された勝れた歌人でありながら、親分肌であり、「大胆にして細心」、リーダーとしての資質を備えています。

学長を補佐する両副学長は、ともに、人格・識見・行動力申し分なく、このたび学長職を去るにあたり、何の心配もなく、むしろ期待すること大でいられることに感謝の気持ちで一杯です。

それとともに、この22年間にわたり学長職を全うできたのは、改革の連続であったにもかかわらず、前

年度定年退職された都築前副学長をはじめ、教職員の皆様が、それぞれの立場・部門で、力強く支えてくださったお蔭です。お一人おひとりに心よりの御礼を申し上げます。

中高も新管理体制へ

平成元年に学長に就任、平成3年に理事長に就任いたしました。理事長に就任して以来、20年にわたり、専ら学長としての仕事に集中してこれたのは、学監・常任理事事として支えてくださる人材にめぐまれたからです。

百周年という学園の大きな節目を迎えたときは、石川学監(当時)が全権指揮者として、見事に祝典・

記念誌刊行などをとりおこなってくれました。

石川学監のあとをうけた北河学監は、前学監同様、中学・高等学校部門の管理面は、ほとんど全てを取り仕切ってくださいました。

石川学監そして前年度で退任されました北河学監には心よりの御礼を申し上げます。

二代続いた学監・常任理事が大きな存在であっただけに、あとの中高部門の管理体制をどのように構築するかが重要となりますが、当面は新たな学監は任命せず、飯野校長・常任理事、谷口事務局長を中心にしつつ、島田学長も常任理事として、栗野大学事務局長も本部統括として加わり、学園全体で中高の管理部門を支えるという新体制といたします。

中高部門と大学部門が、学園としての伝統精神を共有しつつ、それぞれが自立した部門として発展していくことを目指したいと存じます。

学園長・理事長として

本年度からは学園長・理事長職に専念するわけですが、一番大き

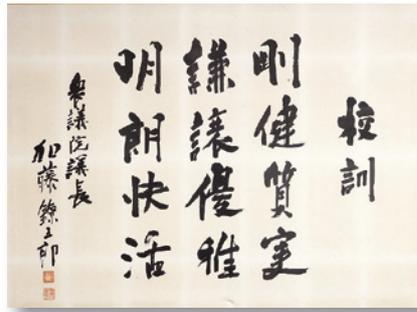
な役割は、「伝統は立ち止まらない」という伝統精神を継承し、時代の動向を察知し、変わるべきは変わり、守るべきは守り、常に学園のあるべき姿を模索しつづけることにあると思います。

その上で、理事長としては、経営面を重視し、世間の常識を踏まえ、財政面・管理面での健全経営を目指し、ご父母の皆様の負託にこたえたいと存じます。

学園長としては、教育面を重視し、学園としてのアイデンティティ、中高部門・大学部門のそれぞれの部門のアイデンティティを明確にし、それが、教育面に反映され、根付いていくようにしていくことが、最も大切な役割だと思っています。

このたび学園広報誌に「学園長だより」を連載させていただくことになりましたが、ここでは、建学の精神に今の解釈をするといった、真に、学園のアイデンティティにかかわることも掲載させていただきませんが、少し幅広く、学園の内外での動き、印象に残ること、学生生徒に伝えていきたいことなどを紹介していきたいと思っています。

宜しく願います。



元学園理事・校医
加藤鏗五郎書